英語　　東京工業大学　（前期）　1/2

＜全体分析＞

試験時間	90	分

解答形式

記述式と客観式の併用。

分量・難易（前年比較）

分量（減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加）

難易（易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化）

・2010 年度以降、「1,000 語を超える長文」が出題されるようになり、この傾向は定着している。ただし、長文２題の総語数は年度によって差があり、2014 年度から 2023 年度までの総語数は、「2,339→3,046→2,139→2,854→2,312→3,092→3,062→3,091→3,348→3,496（過去最多）」で推移している（3,000 語を超えるのは５年連続）。

・分量的な負担はかなり大きくなってきているが、その負担を軽減するように、長文の内容は理解しやすく、設問も取り組みやすいものになっている（とくに、下線部和訳は構文把握が前提とはなるものの、ほかの記述式の設問に比べると取り組みやすいといえる）。

出題の特徴

・大問２題という構成が継続しており、２行程度の下線部和訳・英訳および内容説明が中心という設問形式にも変動はない。「超長文」での出題に伴い、内容一致や空欄補充などの客観式設問の比重も高まり、150 点満点のうち 60～70 点を占めるのではないかと思われる。

・内容説明２問は、大問Ⅰが「70 字以内」で、大問Ⅱが「60 字以内」でまとめるように指示されている（2022 年度は「70 字以内」と「80 字以内」／2021 年度と 2020 年度は「50 字以内」と「60 字以内」／2019 年度は「30 字以内」と「50 字以内」）。例年同様、該当箇所の的確な把握ならびに制限字数内にまとめる日本語の表現力が要求されるので、得点差がつきやすい。

・2021 年度は大問Ⅱで「４つの出来事の順序」を問う問題（７つの選択肢が与えられている）が出題され、2022 年度は大問Ⅱで「数字」を埋めるものが２問出題された。2023 年度では、大問Ⅰで「引用符内の表現が意味する内容」を問うものが２問、大問Ⅱでは「（イディオムや慣用表現を含む）下線部意味選択」が４問出題されている。

その他トピックス

・2020 年度から４年連続して、「本文中の５つの空欄に、一括して与えられた５つの文を埋める」という空欄補充問題が出題されている。2020 年度は１つの段落内での出題であったが、2021 年度以降は本文中の５つの段落に分散されている（2022 年度は埋める５つの文はいずれも短い文であったが、2023 年度は３行ほどの長めの文も含まれている）。

・2021 年度以降、和文英訳は大問ごとに１問出題され、全体で「下線部和訳４問・和文英訳２問」である（2020 年度は「下線部和訳４問・和文英訳３問」であった）。

・定番となっている最後の内容一致は、大問Ⅰが「10 から３つ選ぶ」形式で、大問Ⅱは「８から２つ選ぶ」形式である（大問Ⅱについては、2022 年度は本文が 1,400 語超ということもあってか選択肢の数は９だったが、2021 年度は本文が 1,000 語に満たないもので７だった）。

© 河合塾　2023 年

英語　　東京工業大学　（前期）　2/2

＜大問分析＞

番号	区分	出題分野・テーマ	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）	難易度
Ⅰ	読解総合	「色彩科学の進歩ならびに食品産業への波及効果」 （2,275 words） 下線部英訳（１問） 下線部和訳（２問） 内容説明 文補充（選択） 内容説明（選択） 内容一致（選択）	・英訳：rely on A for B を軸に書くことになるが、for B に相当する部分の訳出がポイント。なお、個々の表現については参考にできるものが本文中に数多くある。 ・和訳：下線部(2)は so … that～構文や疑問詞節を見抜くことが前提となる。下線部(3)は主節の SV 構造の把握と分詞構文の訳出がポイント。 ・内容説明：「改善された問題点」について説明するように指示されており、設問の意図はわかりやすいが、制限字数内にまとめるには情報の取捨選択が重要となる。 ・文補充：「目印」となる表現がわかりやすい。 ・内容説明：文脈に合った内容（ニュアンス）を把握する必要があり、大問Ⅱの５よりは正解の判定に悩む。 ・内容一致：「不正解」の選択肢は判定しやすいので、該当箇所を手際よく見つけられるかがポイントとなる。	やや難
Ⅱ	読解総合	「アルゴリズムを利用した犯罪捜査」 （1,221 words） 下線部和訳（２問） 下線部英訳（１問） 内容説明 下線部意味（選択） 内容一致（選択）	・和訳：大問Ⅰ同様、構文把握が前提となる。下線部(1)は仮定法（otherwise の用法）や関係詞節の理解がポイントとなり、下線部(4)の SVC（the geographic shift was a response by … to～）については、直訳でもかまわないだろうが、意味が通る和訳になるようにしたい。 ・英訳：文全体の構造（主語の what 節や補語の that 節）が読み取れる答案に仕上げることが基本となる。なお、「手口」の MO は「語句注」としても与えられているので見落とさないこと。 ・内容説明：「アルゴリズムが何をすることか」という指示で、it の内容を明示して説明する必要がある。次の段落の最終文の内容をまとめることになるが、大問Ⅰ同様に制限字数内でまとめるには工夫を要する。 ・意味選択：内容説明といったかたちではあるが、基本的には decoy / ad hoc / find a needle in a haystack / stand out についての知識があれば正解は得られる。 ・内容一致：固有名詞を手がかりにすれば該当箇所は見つけやすいし、「正解・不正解」の判定も容易である。	標準

注：区分は「英文解釈」「読解総合」「英作文」「文法・語法」「聞き取り」「その他」
　難易度は５段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

＜学習対策＞

年度により、出題傾向に多少の変化はあるものの、「下線部和訳」「下線部英訳」「内容説明」が、出題における「三本柱」であることに変わりはないので、文脈を迅速かつ正確に把握しながら英文を読み進めていく練習を積んでおくことが不可欠だ。「超長文」による出題が定着し、内容一致や空欄補充などの客観式の設問の比重も高まっている。また、最後の内容一致には数多くの選択肢が用意されており、それぞれの内容を本文と照合していくのは面倒な作業ではあるが、選択肢が本文の内容理解を助けてくれるという側面もあるので、選択肢を“味方”につけながら読み進めていくとよいだろう。英作文については、基本例文を確実に覚えて、それを十分に使いこなせるまでに磨きをかけておくこと。例年、本文中に参考となる表現が数多くあるので、それらを参考にしつつ、ケアレスミスをしないように答案の作成には細心の注意と工夫が必要になる。

© 河合塾　2023 年